

A-1

## WIN×3！ 排泄介助

排泄介助

負担軽減

コスト削減

～利用者、職員、コスト面からのアプローチ～

広島市東区

特別養護老人ホーム ふくだの里<sup>さと</sup>介護職 まつうら けんた  
松浦 健太E-Mail Address [fukudanosato@joukou.or.jp](mailto:fukudanosato@joukou.or.jp)

FAX 番号 (082) 899-5285

施設（事業所）  
またはサービスの  
概要

ふくだの里は平成元年に設立、長期入所 80 名・短期入所 5 名で「人と人とのふれあいを大切に、いきいきと暮らしたいあなたを全面的にサポートします」を基本理念に運営しています。

## I. &lt;取り組み課題&gt;

- ・オムツカバーやパットのサイズが合っておらず、排泄物が収まらない事があり利用者様、職員共に負担を感じていた。
- ・陰部洗浄に要する時間が長く、利用者様職員共に負担を感じていた。
- ・業務都合に合わせた排泄介助により、夜間帯に排泄介助で利用者様を起こす機会が度々あった。
- ・オムツカバー、リハビリパンツ、パットにかかるコスト削減が出来ていなかった

## II. &lt;具体的な取り組み&gt;

- ・5 月：排泄ケアチーム 6 名とリブドゥコーポレーション様のアドバイスを基に年度で計画を立てる
- ・6 月、7 月、8 月、9 月：リブドゥコーポレーション様と打ち合わせ
- ・8 月：リブドゥコーポレーション様と実地でオムツカバーの見直し
- ・9 月：6 名の方を対象に 5 日間尿量を測定
- ・9 月：排泄表と排泄時間の見直し
- ・9 月：リブドゥコーポレーション様による排泄介助について勉強会の実施
- ・11 月：おしり洗浄液を 1 か月試しで使用
- ・12 月：利用者様に排泄に関するアンケート実施
- ・2 月：職員に排泄に関するアンケートを実施
- ・3 月：パットの使用量、消費金額を前年と比較

## III. &lt;活動の成果と評価&gt;

- ・オムツサイズを見直し 23 人のオムツサイズを、一段小さいサイズに変更
- ・6 名の方の尿量測定の結果、過剰にパットを使用している事が分かった。それを基に全利用者様のパットを選定し直した
- ・リブドゥコーポレーション様による勉強会を実施し、オムツをどう当てると不快感があるか、漏れるのかを体験する事で、サイズの把握やパットの過剰な使用は必要ない事を周知した
- ・おしり洗浄液使用前の 10 月は 6 名の方が臀部にスキントラブルを抱えていたが、試用した 11 月で 5 名、12 月で 4 名と減少した
- ・利用者様 14 名によるアンケートによる結果、臀部の痛みや痒みが減ったと答えた方が 8 名
- ・夜間帯の排泄時間変更によってよく眠れたと回答された方は 0 名だった
- ・職員 15 名によるアンケート結果、排泄介助回数を変更したことで負担軽減したと回答した職員が 14 人
- ・オムツ、パット類使用金額、令和 4 年度は 4,703,924 円 令和 5 年度は 4,445,107 円 258,817 円のコスト削減ができた
- ・自己評価として、今年度の取り組みによって利用者様からの満足度や職員の負担軽減コストの削減につなげる事が出来たが、適切なパットの当て方やサイズの選定を全職員に周知してもらい、実行する事が不十分であった

## IV. &lt;今後の課題&gt;

利用者様の睡眠満足度とスキントラブルの成果を更に上げていくために今後も工夫しサービスを提供していく。それが利用者様にとって、職員にとって、コスト面にとって、より WIN WIN WIN に繋がっていく